

■ IP-TALK 「都市のペースメーカー」 -アースケープのランドスケープデザイン-

アースケープの団塚栄喜氏はコドモのままの大人でした。そして そのコトナ(?)さんはランドスケープという仕事を通して、「感じることを忘れないでね」と伝えてくれているような気がしました。

僕が仕掛けをしておくから 君の五感を使って体験してね。それは記憶として君に刷り込まれ 時が流れあらゆる事が変化しても君の中で永遠になるんだよ。目には見えない大事なものが 僕から君へのプレゼントだよ。



世界にはこれほど広い空間があるのに、私たちを受け入れてくれる ささやかな場所がなかなか見つからない。思っていたら、「どうぞ どうぞ〜」と私たちに誘い入れてくれる広場を コトナさんがプレゼントしてくれました。そこに入り込み 主人公になって感じることで 広場は「ステキな場所」になりました。

あったかいからココに座ろう。冷たいからココに座ろう。くっついていたいからココに座ろう。

広場のそこここにちりばめられた仕掛け。それは、見つけたもの勝ち。感じたもの勝ち。

月影のいたらぬ里はなけれどもながむる人の心にぞすむ
-法然上人-

お月様が輝いているのに 心にとどまることがないなんて、もったいない もったいない。見つけたもの勝ち、感じたもの勝ち。

なんだかこのところ 服からはみ出した頭と手くらいしか使っていなかったな・・・。ひらたい足の裏、ぷくぷくのオシリ、感じるココロ。すっかり使うことを忘れていたなあ。

メールが便利なものだから 気づかないうちに近くてとっても遠くなっていた彼と1mの距離に向かいあって腰掛けて、相槌うったり かぶったりしながらお話ししたいな・・・人間らしく。あ、コトナさんは「人間らしさを忘れないでね」って言っているのかも。

今度のデートは 明治大学に忍び込もう。。。

柴田香織

■ 近況報告



ご無沙汰になってしまいましたが、移住して6年になり振り返りつつ近況をご報告します。

当初、薪ストーブで暖を取り、果実と野菜の収穫ができて、夏涼しいので、南八ヶ岳の里山に終の棲家を作り、移住しました。年金生活なので出費は切り詰めたが、高品質の住宅を建てるには田舎しかないというのが本音です。山岳のスカイラインの美しさ(モルゲンローゼと称する朝焼けの美しさは素晴らしい)と水の美味しさは暮らし始めて判りました。

家具・照明・カーテンには部分的に贅沢をしましたが満足をしています。只、土間とカマドは必要だったと、反省しており、近く簡易なカマド兼BBQ台を造る計画をしています。果樹・野菜づくりの実習と思い同じ集落の農家に通い、親し

く交際しています。墓の敷地を提供するとまでいわれました。よそ者だけれどもウチの人と看做してくれた様で良い近隣付き合いができました。

最近、石油の値上がり、自給率の低さが言われておりますが、全く偶然にこの問題の無い暮らし方をしているのでご関心を持たれる方にはお答えしますので、お問い合わせください。

ただし必需品として軽トラックやチェーンソーがあり、作業も楽ではないのでこの点をご配慮ください。

インテリアはコーディネーターとして山梨の協会でボランティア活動をしているだけで、プランナーとしては何もしていないのでお役に立てることがお伝えできず申し訳ありません。

今後は家具の分野で「和」と中国・西洋との交流がどのようであったか、実物を見ながら勉強するつもりです。又孫が喜んで遊びに来られるように、美味しい果樹と野菜を作るのに寸暇を惜しんで励みます。

平均寿命までしばらくあるので、地域と仲良くし、楽しく健康に過ごせるよう質素に暮らすつもりでいます。簡単ですが近況をお知らせいたしました。



JIPAT 会員 昌子成彦

■ 途中下車 川島セルコン 青山プレゼンテーションルーム



最近、お宅拝見でお邪魔すると大型テレビにスピーカーとチョットした劇場である。大きな音を出されるのですかと聞くと、響くので出せませんといわれる。たしかに吸音壁をつくれないうところも多く、折角なら、なんとかしてあげたいと思う。

昨年11月15日に青山にコントラクトマーケット向けショールームをオープンされた「KAWASHIMA SELKON PRESENTATION ROOM」に立ち寄りしました。主に専門家を対象にしたショールームで、すっきりしたインテリアに床材・壁・天井等あらゆるテストが陳列され、ゆっくり選択できる環境にしつらえてある。冒頭の吸音の壁も手軽に施工できる方法が見えるように展示してある。リフォームだと、防炎だとか接着剤の匂いとか、シックハウスの関係で面倒なことが多く発生するのだが、FAB-ACE（ファブエースと読む）は課題解決型多機能壁装システムと呼んでいて、つまりその面倒なところを解決してくれる素材だ。ヨーロッパの王宮やホテルの高級感を感じさせる「どんす張り」を簡素化したもので、不燃石膏ボードに次のような加工

を施す。中身に吸音素材モルトンを使い、専用ジョイナーとモルトンとその石膏ボードにステーブル留めして、希望のファブリックを専用ジョイナーに挟みこんでいく、つまり接着剤を一切使わず施工できるメリットがあり、大きなサイズから小さな絵画的な組み合わせもでき楽しい選択ができます。川島織物セルコンの日本的な感性も味わえる。このファブエースは周波数が高い（耳障りな高中音）ほど吸音性能に優れている実験データがあります。リフォーム等、後付けにも簡単で安全で便利な素材で、吸音機能向上と上質な空間を醸し出すのにこれからのインテリアには欠かせないのではと感じた。一度青山に立ち寄り体感する価値大いにあります。

現在一番力をいれているのがリサイクルの問題で、廃材循環システムでタイルカーペットのバックキングに関しては40%~51%のリサイクルを達成している。今後このような環境配慮型商品はインテリアには欠かせない商品であると感じた。主な展示商品は、タイルカーペット150アイテム、ロールカーペット200アイテム、セラミックタイル100アイテム、その他タイル500アイテム、壁装400アイテム、ファブリックではオーストラリアの「WARWICK」社の生地（カーテン、椅子張り）が1000アイテム近くある。

コンセプトは顧客の要望に応じ様々なオリジナルのオーダーメイドも可能で、あらゆる雰囲気や商材が活かせるアイテムを追求して、オンリーワンの空間作りをサポートさせていただきますとのことだった。

青山プレゼンテーションルーム

〒107-0061 東京都港区北青山2-13-5 青山サンクレストビル5F
TEL: 03-3403-0731 FAX: 03-3403-0750

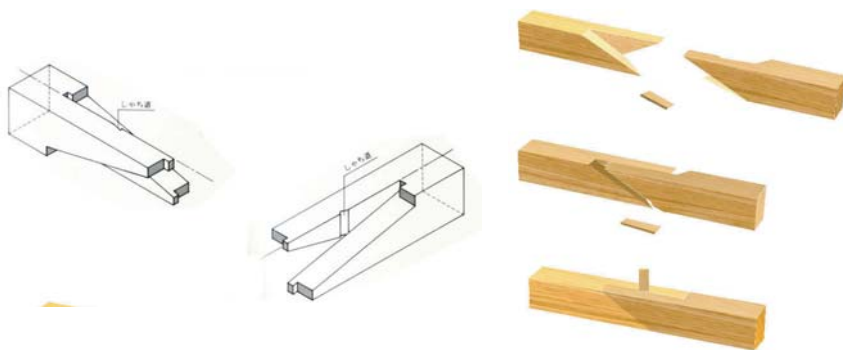
営業時間: 10:30am~6:30pm

定休日: 土曜・日曜・祝日、夏季・年末年始

当館はプロユースのプレゼンテーションルームでございます。恐れ入りますが、ご来場の際は、弊社従業員までご連絡いただきますようお願い申し上げます。



■ 知って知らない道具たち



いすかしゃち継ぎ



長野に行った時途中のインターチェンジでくちばしの合わない小鳥をみた。地球温暖化で小鳥にその影響が出始めたのかと、それにしてもモズのような元気な泣き声である。望遠レンズで写真を撮った。

すっかり忘れていて別の写真を撮り出す時この小鳥が出てきた。気になったので野鳥図鑑で調べたらくちばしの合わない野鳥が実在した。渡り鳥で日本には冬に渡ってくるイスカという野鳥である。そういえば建築で「いすか継」というのがあり、大材ではなく天井の竿縁とか庇の化粧たるきに使われていた事を思い出した。また、つじつまが合わない事をイスカのくちばしというそうです。物事が食い違ってしまうようにならないと広辞苑にあった。



■ お茶の話

連載をしようと取り上げた「お茶」のシリーズですが、奥が深く簡単には説明も出来なく難渋していた。ところが、『pen』や『家庭画報』でとりあげられ、個人では太刀打ちできないことが判明した。そこで今回を最終章に決めた。

今回は釜師についてお話しします。
15～6年前、家具の特注を頂きお届けに上がったところが有名な江戸名越と云われる名越邸であった。今回それを思い出し品川区旗の台4丁目に出かけた。が見当たらない。そのあたりはあたらしいアパートが乱立していてとうとう見つけることができなかった。そこで三越に行き茶道具売り場で確認したが、そちらでも以前探したことがあったが分らなかったとのこと、有名な、それも何代目と呼ばれる名門の道具師のイベントをみると集客には困らない、必ずお客さんは来て下さるそうで、「私どもも探しました。確か13代目は女性だったと思うよ」とのこと、調べてみたら12代昌利師の奥様で13代は女性で昌輝さまでした。以前お話を聞いたことは、京都名越の11代ころは織田信長に仕え三千石を賜った。11代弥右エ門善正は豊臣秀頼の命で京都方広寺大仏殿の大鐘を三人の息子（三昌・宗久・家昌）と共に铸造した。この鐘に「国家安泰」の4文



字が铸られた。「家康」が家康の名前を分断して呪い、豊臣が栄えることを願ったと、家康の怒りをかい、大阪冬の陣、次に夏の陣が起き、ついに豊臣家は滅亡した。時代は徳川の世になり商業は江戸に移り、名越家の三男家昌は江戸に下り江戸名越家の初代になった。とお話を聞いたことがありました。旗の台はいつからですかと聞きましたら戦後です、その前は御徒町にいました。その時に作ったものに神田明神の天水桶があるそうです。銘家が粗相を起こすのも困りものだが、衰退していくのも耐えられない哀れを感じます。



国家安泰 君臣豊楽の文字が見える方広寺鐘楼

■ 東京マラソンに出場しました



高橋尚子が失速し北京オリンピックの切符を手にしなかった。2004年にアテネオリンピックの選考から外れた。それは小出監督の判断ミスだったのか。この「判断ミス」が最後まで心の足かせになっていたのではないか。あの時の判断に対する後悔の念が、今尚高橋を苦しめている。監督との確執も始まった。不信心。最初の選考レースで結果が出なかったにも関わらず、後2回の選考レースを辞退した。実績のある高橋ならこの成績でも出られる。その判断を高橋選手がしたのか小出監督がしたのか。本来の判断はあの分りにくい陸連だから始末が悪い。しかも勝手な判断を

することに制裁を加えたい向きが入っていれば更に状況が悪い。最近ではボクシングの亀田一家もそうで、確かに口の聞き方が悪いが彼たちは小さい頃から敬語など必要なかった。作家の「ひろ さちや」氏は今の日本人には常識はあるが、良識が欠落していると言っています。

マスコミが騒ぐと「さもりなん」と云い。良識とは自分で考えて答えをだすことであり、常識とは人がこう云うからそうだと思うことで、両者は全く違いますと書いておられる。先の高橋と小出監督との二人三脚は、小出監督の目立ち過ぎが陸連の常識から外れてしまったのだと思う。亀田一家のセコンドのアドバイスを世間の常識が許さなかった。これが良識で判断したらどうなったか。マラソンの話を書こうと思って書き始めたら高橋選手ではないがトイレに立ち寄ったみたいで、正規の話題にもどします。2月17日の東京国際マラソンに情報委員の法人会員比護太一さんが参加しました。10キロに参加して「走りきりました」と報告がありました。何人かの応援をして下さった知り合いの方々を見つけましたが、皆さんは気がついていないようで、走っていると沿道の応援してくれる人はよく見えるのですが、逆は選手が多ので難しいようですね。と委員会そっこのけで盛り上がりました。ゼッケンとメタルの写真を貼付しました。ゼッケンを入力するとゴールした比護選手を見ることが出来ます。インターネットで東京国際マラソンと入力して、サイトの中に「東京国際マラソン写真はこちら」をクリックしてください。そしてゼッケン入力にJ6292を入力すると3枚あります。息のあがっているさまをみてね。

■ 編集後記

今年は閏年でした。明治5年和暦を捨て、西暦にしたその時から4年に一度2月に1日プラスした。和暦だと3年に一度13ヶ月にした。これを閏月といい、この年を閏年といいました。桜田門外の変の安政7年は閏年で、3月が2回在ったとある、正3月と閏3月、つまり60日あったわけで、3月3日の「桃の節句」はどうしたのでしょうか。2回したのでしょうか。

入会

正会員・・・茂呂 肇氏、菅原 智氏、長野 貴康氏

一般会員・・・芹川 恭子氏

学生会員・・・斉藤 美音氏、白竹 梢氏

正会員:344名 一般会員:38名 法人会員:121名 学生会員:4名

合計:507名

編集長 井上 常雄